

ころである。

震災発生後の消防本部の主な災害応急活動の実施状況は、資料編、表1のとおり。

ウ 情報収集活動

通信指令室の通信機器が転倒転落し、同時に庁舎全館が停電に見舞われたが、非常電源で、通信指令室の機器と照明が復旧した。

しばらくの間は「119番」通報はなく静寂な空白があったが、間もなくすると「119番」専用電話が一斉に鳴り出した。

同時に庁舎玄関には、救助要請に多くの市民が押し寄せたが、受付員は、一般加入電話による災害受信に対応せざるを得ず、駆け込み要請には、情報収集本部の設置で対応せざるを得なかった。

一方、災害現場へ出動した消防車両からの状況報告、医療機関紹介、応援部隊要請などの無線報告があるものの人員と機能不足等で錯綜し、適正指令と正確情報がつかめる状況になかった。

また、消防指揮本部開設後、情報収集のため出動した車両は、街中500mと走らないうちに市民に取り囲まれ救助救出を懇願され、情報収集は不可能であった。

地震に関する情報収集についても消防指揮本部においては、テレビ、ラジオを活用するゆとりもなく、情報は、参集職員から収集する状況で、職員からの「西宮・神戸とも凄惨な状況、道路寸断、火炎上昇」・「神戸、震度6・京都、震度5」の情報から、広域的災害であり、応援要請もさることながら、救助・救護体制の確立を最優先と判断したため、後刻、情報発信の遅れを指摘されたところである。

消防機関が受信した災害受信状況は、下表のとおりであるが、震災当日の「駆け付け」受信数は、救助救出要請事案の一次処理後、災害受付票をもとに集計したものであり、震災当日の救助活動は、受付票を救助班に直接手渡し、即、出場指令であり、当日の混乱状況から、受信数は表数値を上回るものと思われる。

なお、震災当日の救助要請受付票の集計整理は、建設部職員が当たり、薄暗い照明と投光機の明かりを頼りに底冷えする消防庁舎の玄関ロビーの片隅で、来庁者が減少した22時00分頃から夜を徹して町別毎に集計し、翌日の救助救出活動に備えた。

月日	項目	119番	加入電話	警察電話	駆け付け	合計
1月17日		397	153	43	530	1,123
	18日	263	115	32	125	535
	19日	174	75	15	15	279
	20日	110	50	13	5	178
	21日	94	43	10	4	151
	合計	1,038	436	113	679	2,266

エ 職員の参集状況

発災直後、通信指令から緊急招集を行ったが、電話回線不通のため、緊急連絡網での招集は困難を極め、職員の自発的参集となった。

区分	参集者数(人)	参集率(%)
当直勤務者	22	26.2
1時間以内	11	39.3
2時間以内	14	56.0
3時間以内	10	67.9
4時間以内	8	77.4
5時間以内	2	79.8
5時間以上(正午)	14	96.4
翌日	2	98.8
合計	83	98.8
職員数	84人(入校2人・休職1人)	